

群馬森林管理署長が語る

群馬森林管理署長 井上康之

《群馬県の森林・林業》

群馬県の森林面積は43万haで、森林率67%は全国平均レベルですが、国有林率が46%と圧倒的に多いのが特徴です。これは特に群馬県内の外の2署（利根沼田署、吾妻署）に国有林がまとまって存在するため、当署の国有林は県境や他署との堺に散在しています（図1）。

群馬県は利根川の源流部に当たり、まさに首都圏の緑の水がめとしての機能を果たしています。これは、少し小高いところにとると、関東平野が一望できることからもうかがえます。特に赤城山パノラマ展望台（国有林内）から見る眺望は有名で、空気が澄んだ日にはスカイツリーが遠望できるといわれています（写真1）。

群馬県では先だって今後10か年間の「群馬県森林・林業基本計画」を策定し、素材生産量を現在の38万m³から50万m³に引き上げることを目標として掲げています。国有林と違って民有林の伐採はほとんどが間伐で、これを達成するためには皆伐再造林をいかに進めていくかが課題です。根本にはシカ被害の問題があり、これを解決しないことには再造林コストが掛り増しになるため皆伐にはたどりつけません。

また、県内に大規模な木材加工事業者が少ないことも課題の一つです。県内で生産された丸太の26%が県外へ流出しているため、地元への利益還元が少ないことが指摘されています。この計画によれば、今後、大型製材・集成材工場を誘致し、大手ハウスメーカー等への販路拡大を目指しています。

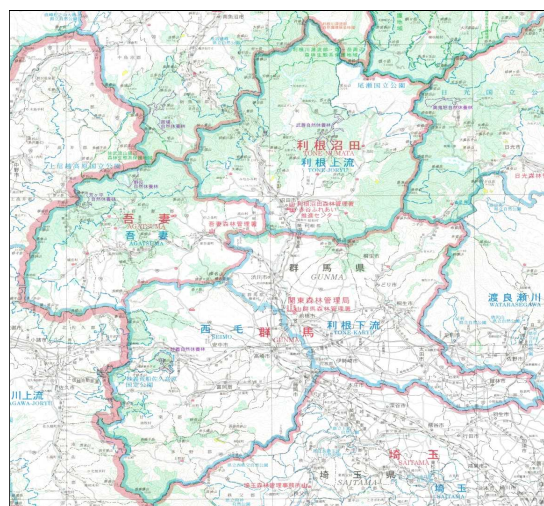


図1 群馬県の国有林



写真1 赤城山からの眺め

前置きが長くなりましたが、以下に、当署の最近のトピックスや取組を3点ご紹介します。(以下、常体「である調」で失礼いたします。)

トピックス1 玉ねぎネットでシカ防除

いうまでもないことであるが、シカの防除にはお金がかかる。お金がかからないようにと考案したのが、ホームセンターなどで市販されている玉ねぎネットの利用である。玉ねぎネットは我々がスーパーで見かけるミカンネットより格段に大きく(高さ80センチ、幅40センチ)、素材も異なる。竹の支柱に「パッカー」という市販のクリップでネットを固定して、苗木を覆うという作戦である(写真2)。

令和元年度に200本の苗木にこれを取り付け、①耐久性、②専用の単木保護資材(チューブラー)とのコスト比較、③何もしない場合(無対策)との防除効果の比較、④成長への影響をみることにした。

ほぼ2年が経過した時点では、

- ①耐久性は現在のところ問題はなし(ネットの色の変化だけ)
- ②コスト比較では、資材費・人件費等を含めて約5割の削減
- ③防除効果は、食害にあったのが4%と、無対策の85%に対し格段に高い
- ④成長への影響は、85%に曲がり等がみられた

今のところ、問題は④の成長への影響で、ネットの上部に苗木の先端部が引っかかって上に伸びることができなかつたことが原因である(写真3)。その後、先端部の曲がった部分をできるだけ上方に立て直し、ネットが引っかからないような処置を行った。引き続き観察するとともに、この試験を通じて得た改善点を活かして実用化に近づけていきたいと考えている。

なお、この取組は平成2年度から4年度までの「関東局技術開発課題」として登録しており、定期的に専門委員のご意見を伺っている。



写真2 玉ねぎネットの取付



写真3 玉ねぎネットの被り

トピックス2 群馬県フォレスター会（仮称）の発足

去る令和3年3月24日、「群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会」が発足した。あまりにも長いので、ここでは「群馬フォレスター会」と略しておくが、これでは面白くないということで目下通称（愛称）を検討中である。聞けば、私が着任する前からの積み残し課題で、なかなかの難産だったようである。僭越ながら、設置要領により、群馬森林管理署長が会長、群馬県林政課長が副会長、事務局は群馬署・地域林政調整官という体制になった。

「群馬フォレスター会」というからには、森林総合監理士のメンバーが中心なのかなと思われるかもしれないが、まずは県と局・署の民国連携・普及担当職員がメインになって活動を展開することとしている。将来的には、県内の森林総合監理士の資格保有者にも加わっていただく予定である。

とりあえず器はできた。問題は中身だ。4月28日に県と打合せの場をもち、会の役割、活動方針等を取りまとめ、県内市町村に紹介することとした。

（図2）

今後、局のおひぎ元の群馬県で、「群馬フォレスター会」の活動がますます活発になり、森林経営管理制度と林業成長産業化の推進力となることを大いに期待している。いや、他人事ではない、そうしなければならない。

群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会

通称：検討中

「群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会」は、本県の林業・木材産業の振興と森林の強靱化に向けて、群馬県と国有林が連携・協力し活動することを目的に、令和3年3月に設立しました。

主な活動内容

- ・ 森林・林業等に関する情報の共有
- ・ 森林・林業に関する研修会の開催
- ・ **森林経営管理制度の円滑な運用をはじめとする市町村支援**
- ・ 次代を担う若手職員等の育成
- ・ 森林病虫害や有害鳥獣対策
- ・ 林業事業者の育成

市町村支援について

本連絡会は、森林・林業行政の推進などの事務を担う市町村の皆様に対して、そのニーズや地域の実情等に応じた支援を進めます。

主な支援

- ・ 森林経営管理制度の運用や森林環境譲与税の活用などに関する技術的アドバイス
- ・ 森林・林業行政の実務経験のない職員を対象とした基礎研修
- ・ 植栽や間伐など国有林をフィールドとした現地研修
- ・ 低コスト造林や獣害対策、路網計画など応用的な技術等に関する現地検討会や研修

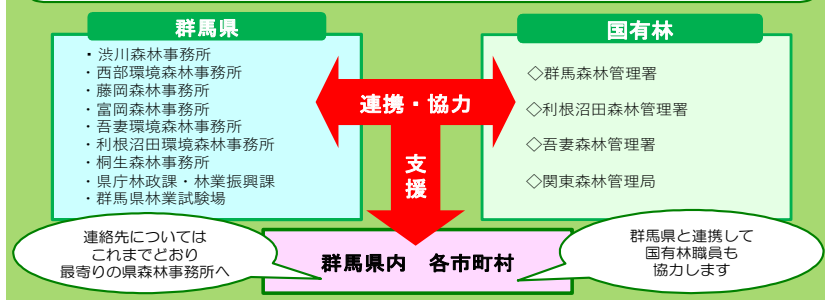


図2 群馬フォレスター会の紹介パンフレット

紹介したいことはまだまだたくさんありますが、とりあえずこのくらいで。是非、群馬署においでください(^_^)。